



# HOKKAIDO UNIVERSITY

|                  |                                                                                   |
|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| Title            | <第4回研究会>NP0, 政府, 企業間の戦略的協働 : 北海道グリーンファンドの事例分析                                     |
| Author(s)        | 平本, 健太                                                                            |
| Citation         | 地域経済経営ネットワーク研究センター年報, 1, 104-106                                                  |
| Issue Date       | 2012-03-30                                                                        |
| Doc URL          | <a href="https://hdl.handle.net/2115/48844">https://hdl.handle.net/2115/48844</a> |
| Type             | departmental bulletin paper                                                       |
| File Information | REBN_1_104.pdf                                                                    |



## ＜第4回研究会＞

# NPO，政府，企業間の戦略的協働 —北海道グリーンファンドの事例分析—

平本 健太

本報告は、小島廣光・平本健太（共編著）『戦略的協働の本質—NPO，政府，企業の価値創造』有斐閣（2011），の第9章に所収されている事例を中心として，NPO，政府，企業の異なる3つのセクターに属する主体が，戦略的協働を通じて新しい社会的価値を創造するプロセスについて検討を行ったものである。

本報告の分析対象は，NPO 法人北海道グリーンファンドが，日本初の「市民風車」を建設・稼働し，その後の活動を展開している戦略的協働プロジェクトである。ここで，戦略的協働とは，「NPO，政府，企業という3つの異なるセクターに属する参加者が，単一もしくは2つのセクターの参加者だけでは生み出すことが不可能な新しい概念や方法を生成・実行することで，多角的な社会的価値を創造するプロセス」と定義される。

戦略的協働プロジェクトに対するNPOセクターの参加者は，北海道グリーンファンド，脱原発を志向する市民，生活クラブ生協北海道，グリーンエネルギーに興味を持つ市民などである。このうち中心的な参加者である北海道グリーンファンドは，①誰でも無理なく地球環境の保全に貢献できる「グリーン電気料金制度」，②再生可能な自然エネルギーを生み出す市民共同発電所（市民風車）づくり，③省エネルギーの普及，などに取り組むNPO法人である。他方，戦略的協働プロジェクトに対する政府セクターの参加者は，日本政府，浜頓別町，石狩市，北海道などであり，企業（ビジネス）セクターの参加者は，北海道電力，トーメンパワー・ジャパン（当



時），カタログハウス，東北電力などである。

事例は，年代記分析によって記述・整理された。年代記分析とは，事象を年代順に並べることによって，事象間の相互関係を経時的に記述・分析し，因果関係を確定する方法である。具体的には，①協働プロジェクトの全期間を前史，形成期，実現期，展開期の4期間に区分し，②各期における参加者の行動と行動間の相互関係を記述・分析した。また，事例の記述に必要なデータは，3名の協働アクティビストを含む関係者に対する聴取調査（1次データ）および，雑誌記事，新聞記事，書籍，各種の公刊データ（2次データ）によって収集された。

事例の分析にあたり，協働の窓モデルが開発された。このモデルは，活動の流れを中心に，問題の流れ，解決策の流れ，組織のやる気の流れの4つの流れ，問題の窓，解決策の窓，組織のやる気の窓という3種類の協働の窓，活動，問題，解決策，組織のやる気，およびそれらのストック，協働アクティビスト，協働の場など，現実の戦略的協働のほとんどすべての要素を考慮した，包括的かつ統合的なモデルである（図1）。

事例分析に必要な諸概念や理論的枠組を概観

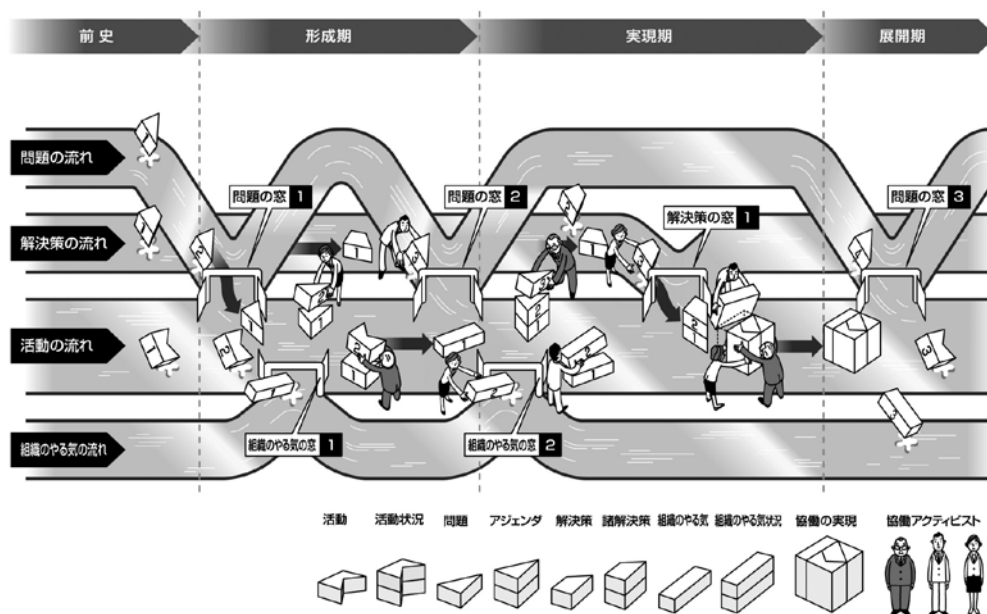


図1 協働の窓モデルの概念図

した後、北海道グリーンファンドを中心とする協働プロジェクトの分析が行われた。具体的には、協働前史（第1期：～1996年12月）、協働形成期（第2期：1997年1月～1999年12月）、協働実現期（第3期：2000年1月～2001年9月）、協働展開期（第4期：2001年10月～現在）のそれぞれの期間に、NPO、政府、企業のそれぞれが、なぜ、どのように、活動を展開したのかを協働の窓モデルにもとづいて記述・分析した。紙幅の関係で事例の詳細については割愛せざるをえないが、北海道グリーンファンドを中心とする協働プロジェクトは、市民風車を建設・運用するためのプラットフォームとも言うべき「仕組み」の創出に成功した（図2）。こうした仕組みが整備されることで、市民出資による風力発電施設（いわゆる市民風車）の建設・稼働が制度化され、北海道をはじめとする多くの地域で、市民風車が建設され、運用されている。

事例分析の結果、戦略的協働の本質に関する18の命題が提示された。本研究報告では、このうちの4つについて、特に詳細に説明した。すなわち、命題2「協働の捉え方は参加者によって異なる」、命題9「（1）技術的実行可能性が

高く、（2）コストが許容範囲内に収まり、（3）一般市民の黙認が得られる解決策が生成・特定化される場合、協働の実現可能性が高まる」、命題14「協働アクティビストが、（1）協働を意図した活動と、（2）協働を必ずしも意図しない偶然生じた活動とを1つに結び付ける場合、協働の実現可能性が高まる」、命題18「協働の先例は、特定の領域内および他の領域に波及する」である。

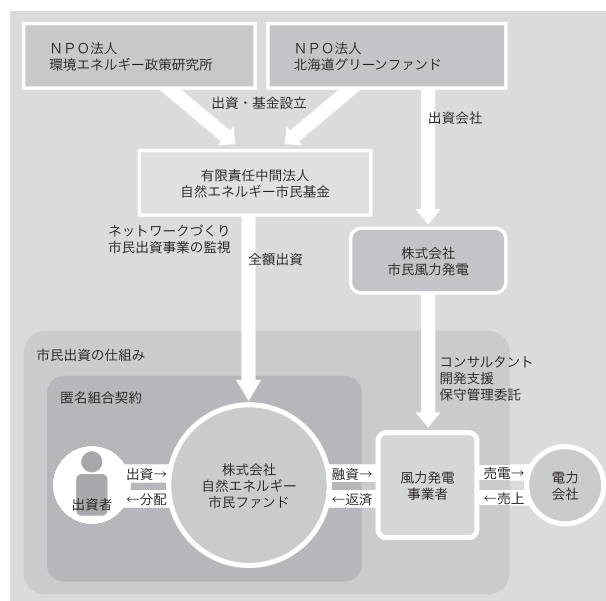


図2 市民による風力発電事業を支援するプラットフォーム

本研究の意義は、(1) 協働のプロセス以外の組織的知識創造プロセスや意思決定プロセスにも適用可能な理論的枠組、すなわち「協働の窓モデル」を開発した点、および(2)「協働の窓モデル」にもとづいた年代記分析によって、戦略的協働の実態を精確に記述・整理し解明した点である。

本研究によって提示された実践的指針は、(1) 気軽ではあるが濃密な相互作用の場を設定・活用せよ、(2) 何が問題なのかを熱くじっくり語れ、(3) 参加者の信念や思いを解決策に盛り込め、(4) しかし解決策は現実的であれ、(5) そして、解決策を洗練せよ、(6) 偶然生じた活動に勝機を見出せ、(7) 窓が開いたら、他の窓の開放も探索せよ、の7点である。

報告終了後のディスカッションでは、北海道グリーンファンドの活動の意義、協働という現象の定義や捉え方、協働アクティビストの役割、市民による風力発電の意味と問題点、協働プロジェクトの波及などについて活発な質問や意見交換が行われた。こうしたディスカッションを通じて、報告者もいくつかの新たな視点を得ることができた。このように、非常に有意義な研究報告の場を与えていただいたことに感謝の意を表する次第である。